吉松研究室　第 20 回議事録

日時　　：2012 年 11 月 28 日　水曜日　11:30〜16:00
場所　　：山田記念室
出席　　：M２　加藤
　　M１　金子
　　B４　板部(記)　大越　落合　相良　桜井　清水　高橋　玉江　中林　山田　渡邊
欠席　　：M２　田口　細金
　　：増井（研究生）

ゼミ内容

□ B4　卒業設計中間発表

□卒業設計中間発表

■大越　／　「じいちゃんが障がいを教えてくれた　〜スケール感から生まれる 100 のストーリー〜」

・ じいちゃんがつくっている生活の秩序をよりつくりやすくする空間をつくるプロジェクト
> 自宅を 1/3 改修するとかしないと意味がない。
> 今一緒に住んでいる、父、母、祖母はどうするのか考えなければならない。
> どのゆらぎに注目して、やっていくのか絞る。
> 思ったことを素直にピュアな形で住宅に示す。

■玉江　／　「1.8×200m の賑わい」

・ 狭小の店舗と住宅を共存させ、六角橋商店街らしさを保存していくプロジェクト
> 問題意識はなんなのか？
> 商店街の人が本当に守っていきたいものは何か、そしてこわすものなにか？
> 狭小の店舗はどうやったら、住宅と共存できるのか？

■桜井　／　「森のような図書館 ~迷うことによって生まれる本との出会い~」

・ 森にみる迷いの現象を用いて、迷うことを前提とした図書館をつくるプロジェクト
> 森を想起させる形状で森のような空間をつくることはおもしろくない。
> 図書館として機能しない。
> 迷うということは誰にでもいいことではない。

■山田　／　「図書の道」

・ ベッドタウン化していく大磯に、住民同士のつながりが生まれるような、自然と集まれる場をつくるプロジェクト
> 大磯の歴史や自治体が行っている事をきちんと調べる。
> 大磯の町全体で考える。
> 大磯の問題で役場ができていない理由を考える。
> イメージだけではだめ。
> 敷地の選び方を考える。

■板部　／　「甘木ん街んコアば再構築します。　コンパクトシティにつくる商店街型メディカルスーパー」

・ 中心市街地の衰退した商店街をもう一度人と人とのつながりを生む場にするプロジェクト
> 市のやっていることをいつまでたっても言わないまま堂々巡りしているだけ。
> 今の甘木がどういう状態で、今後どうなるべきなのか。市の計画に意義申し立てをするなら、まずは市の計画のどこがおかしいかを言わなければならない。

■渡邊　／　「こどものイエ×マチ」

・ 小学校に見えない子供の為の小学校をつくるプロジェクト
> 前半パネル 2 枚で子供の為の小学校を作るというフローを描いているのにも関わらず、設計したものは、動線計画、空間、日光を考えなさすぎている。
> ちゃんと子供の為の空間とは何かを考える。
> 小学校の計画、建築家の思想、小学校の現場の考えをしっかり知った上で問題意識を絞る。

■高橋　／　「やわらかい建築　ーぼかしが発信するナカノ・コミュニティアートミュージアムー」

・ 中野に境界がぼけた美術館をつくり、町らしさを周囲に発信することで機能をつなぐプロジェクト
> 抽象概念を曖昧な言葉で説明したところで論議できない。
> 一度考えを捨てる。

■中林　／　「まちのえき　小さな駅が繋ぐつるみ多文化コミュニティ」

・ 沖縄文化による特徴的な商店街沿いの住宅街に街区単位の集合住宅をつくるプロジェクト
> 集合住宅と言わず、街区ごとに生活の一部となる共有するなにかを考える。
> 一つでは駅にならないので複数つくり、それらをネットワーク化していく。

■落合　／　「皺をつくる建築」

・ 地区センターと地域ケアプラザの複合施設の境界を皺を使い解決するプロジェクト
> 落合は皺のどんなところに興味を持ったのか？曖昧なものを作ればいいのか？物理的な皺を作ればいいのか？
> 建築に皺を寄せるのか、都市に寄せるのか、事例もないから何も伝わらない。

■相良　／　「ダンスの居場所　うつ病×perfoming arts center」

・ うつ病患者にダンスを習ってもらい、表現する事を学び、うつを直してもらうプロジェクト
> ダンスのジャンルを絞る。
> 問題意識が弱い。
> やりたい事を建築的に伝えること。

■清水　／　「崩しを用いた建築」

・ 武道における「崩し」を建築化することで、詰め込まれた都市生活にモノだけでなく、様々な「コト」を許容する余地のある美術館をつくるプロジェクト
> 武道における崩しはいいがその崩しまでの過程が大事、一度柔道をやってみればいい。
> 大都市の新宿につくるということは、それなりの魅力を持ち、大勢の人をさばける美術館でなくてはならない。
> 崩しから一度頭を離して考える。
> 美術館についてのディフェンスを固める。ある程度のリアリティは必要。

□総評

・ 都市からやる人はその街のことをきちんと理解する。空間からやる人は自分の言っている抽象的な概念を具体的に説明する。プログラムからやる人は自分がこうあるべきと思う建築を作るための方法等をきちんと示して行く。まずはそういったディフェンスをきちんと固めておかないと攻撃は出来ない。

吉松研究室　第 19 回議事録

日時　　：2012 年 10 月 10 日　木曜日　15:10〜19:30
場所　　：山田記念室
出席　　：M2　加藤　田口　細金
　　：M1　金子　増井(研究生)
　　：B4　板部　大越(記)　落合　相良　桜井　清水(記)　高橋　玉江　中林　山田　渡邊
欠席　　：なし

ゼミ内容

□ B4　卒業設計テーマ発表
□ M1

□デザインリサーチ

■山田　／　「図書の道」

・ 自然と本に触れられ、道のように行きやすさがあり、人それぞれ自分なりの空間を認識することで部屋のような居心地の良さを感じられる図書空間を提案する。

> 理論をフローすることが大事。
> 間がふわふわしているから自分の間を明確にする。
> 今はデジタル世代だから、関係がブチッと切れてしまう世の中。

■清水　／　「雑」

・ 複数のものが交わる雑は昔の襍の意味に近い。
・ 単体で成り立つ近年の雑さと混合させることにより、襍という美しさとしての個性をつくる
・ 雑を用いて窓や壁を再定義することができるのではないか

>原形が想起されなくては雑は生まれない

■玉江　／　「仮」

・ 古い日本家屋に感じられる包容に興味を感じた
・ くぼみ、傷
・ 親しみ、包容

> 答えを急ぎ過ぎて話を寄せ集めているだけ
モチベーションが雰囲気っぽい

■落合　／　「皺を寄せる建築」

・ 歪みや崩れているのではなく、どこか空間の影響を受けながら変化することで多様な表情のある美術館をつくる。

> 美術館の問題意識を学ぶ。
> ホワイトキューブにとらわれてしまうのはよくない。
> 作品を斜めにされて作家は喜ぶか ？
> 壁が歪んだことだけで卒業設計はできない。

■中林　／　「都市と駅」

・ 駅概念の変化が起きている
・ 単に鉄道機関を目的とする場所ではない
・ 駅とは都市の出入口

> みんなと違うアプローチでいい
ただ調べるだけでなく、分析する
町の構造やダイアグラムをつくる

■大越　／　「つかのますみか」

・ 障害者目線で都市を見ると、孤独に感じた
・ フラットな空間は逆に恐く感じた
・ 人から少し逃げ隠れする場所が必要
・ 喜怒哀楽も心理的な障害だと感じた

>障害にはいろんな種類がある
ユニバーサルデザインとバリアフリーはなにが違うのか

■高橋　／　「やわらかい建築」

・ 空間同士にグラデーションをかけることで境界をぼかし、互いに関係性を持ったやわらかい美術館をつくる。

>あいまいとの違いはなにか。
>ぼやけた、グラデーション、やわらかい、それぞれの違いはなにか。
>言葉がたくさんでてもまどわされな い。言葉を選ぶ。

■相良　／　「色気」

・ 緩やかにつながれた空間に多様な表情がある

>「魅力」と何が違うのか
色気と魅力は同じものなのか
魅力がない人もいるのではないか

■板部　／　「故郷甘木ん活気ば再生します。」

・ まちらしさを感じない従来のスーパーを商店街型にすることで、ひと昔前の人びとの交流の場所であった雰囲気に変える提案。
・ 建築とアート作品の一体性が強まり、分棟にすることで、ひとつひとつの棟が独立しているため各作品のプライバシーもつくりやすい

>商店街型のスーパーの事例を調べる。
>衰退した原因は何で、何が必要で、何で答えるか。
>かつてあった街のあたたかさを果たしてしっているのか。

■桜井　／　「距離感」

・ コメントなし

■渡邊　／　「粧う建築」

・ 「はずし」とは元からある表現に変化を加え、意識、視線を多方向に向けさせること
・ 本来の機能、形は保たれつつ、別の要素が入り込むことによりさらに際立たせる
・ 「テーラリング」が衣服のシルエットの構築に不可欠とされている

> 答えがでていない
言葉が違うだけで、内容は同じようなことはたくさんある
ファッション用語で説明しても内容は普通
自分の言葉で説明する

□総評

・ これまでとは違う新しいプログラムをつくらないといけない
・ これまでの常識を考えなおして、公共性とは何か考える
・ 空間がプログラムに左右されない?
・

吉松研究室　第 14 回議事録

日時　　：2012 年 10 月 3 日　木曜日　11:05〜14:50
場所　　：山田記念室
出席　　：M2　加藤　田口　細金
　　：M1　金子　増井(研究生)
　　：B4　板部　大越　落合　相良(記)　高橋　玉江　中林　山田(記)　渡邊
欠席　　：桜井　清水

ゼミ内容

□ B4　卒業設計 模型　テーマ発表
□ M1

□卒業設計

■中林　／　「まちの駅」

・ 現在の駅は巨大化によって町を分断し商店街に影響を与えている
・ 駅というのは馬屋であり、生活の拠点であった。
・ 鶴見は外国人の施設や環境があるが実際に使っている人は少なく。日本人との壁がある。
・ 駅というのが利便施設になっているので、外国人や周りの人たちの生活の拠点となるような施設にしようとする

> 問題意識はいい。
意見を文章で書かないで、絵に描く。
自分の意見を分析図として示さなきゃいけない。

■板部　／　「故郷を思慕いながら」

・ 地方では中心市街地の疎開地過疎化が進み、町らしさが無くなっている
・ 甘木は車社会においてショッピングセンターが出来る事で空洞化してしまった。
・ コンパクトシティを目指す町として中心市街地にショッピングセンターに変わるスーパーを目指す。

> 商店街をスーパーにしようとすると便利になるがコミュニケーションがなくなる。
矛盾ではないか？
既存の事例を模型などで示す。

■山田　／　「「間」でつながる図書館」

・ 間という概念が人との程よい関係性を作り出している。
・ 現在の多くの既存施設は機能ごとに分かれてしまっている。
・ 直接的に空間を繋がないで、空間同士に間を落とし込む

> 間とはなんなのか？
問題意識はなにか？
図書館はワンルームにして、その他の機能もワンルームで間に何か入れるなら複合施設を選択する理由になる

■大越　／　「離れながらもつながる」

・ 祖父が障害者になった事で社会の冷たさに触れた。
・ 障害者自身からの情報発信も含めた相互のコミュニケーションが社会のどこかにあったらいいなと思った。
・ 祖父の五感を元に空間を考える。
・ インターンで学んだスケール感覚を考える。

> 特殊な障害者に対して個別の住宅を設計するだけじゃ卒業設計に対して少し弱い。
今の段階では人間的な悩みであり、建築学科の学生なので建築的な提案として答えていく。
新築なのか増築なのか？

■落合　／　「皺を寄せる建築」

・ 皺とはマイナスのイメージがある。
・ 均質化された都市は内部空間が完結してしまっているので皺によって関係性を作る事が出来る。
・ 皺は線を崩す事で出来る。

> 建築における皺というのは何か？
建築に皺に寄せるのか、都市に皺を寄せるのか？何が問題意識なのか？
レファレンスに皺が寄っているのなら、落合が作る意味が無い。

■相良　／　「遊びと本気の間」

・ 外国では若いうちからダンスに触れ合える機会や学校がある。
・ コンテンポラリーダンスのためのダンスセンターは世界中にある。
・ 深夜に練習をしなければならない状況にあるダンサーのための施設を作る。

> 日本にはダンスの機関はないのか
ダンスについて理解して、自分が何をやりたいのか説明できるようする
社会的に認められるようにしたいなら、大学などを作るのでは根本的な解決にはならない

■渡邉　／　「都市の学び舎」

・ 現在、他の施設と複合している小学校はあるが機能は分かれて並列してしまっている
・ 特別教室を町に出して、小学校の空いた部分に公共施設の機能を入れる

> 今の提案では現実に負けている
一番の問題意識は何か
オープンスペースや公共と合わせるのは本当にいいのか

■高橋　／　「やわらかい建築」

・ 空間同士の境界がぼやけて曖昧なのがやわらかい建築
・ 自然物から取っている形は無駄がないのでやわらかくない
・ 光のグラデーションが大事
・ 人によって境界の認識が変わるのがやわらかい

> なぜやわらかいと感じるのかを説明できていない
何をもってやわらかいと言うのか
やわらかい建築と、曖昧な建築の違いは何か

■玉江　／　「」

・ 六角橋商店街は賑わいはあるが不安定で破壊される可能性があるので保存したい
・ 闇市をルーツに発展してきた距離感と密度感を残していける補強体を建築化する
・ 商店街、住民、大学の３つが連携したものを提案する

> 問題意識は何で、どうしていきたいのか
どうして面白いのかを説明できなけれが意味が無い
調べたものを自分で分析して書く

吉松研究室　第 17 回議事録

日時　　：2012 年 9 月 19 日　水曜日　11:30〜16:00
場所　　：山田記念室
出席　　：M２　加藤　田口　細金
　　M１　金子　増井（研究生）
　　B４　板部　大越　落合　相良　桜井　清水　高橋(記)　玉江(記)　中林　山田　渡邊
欠席　　：なし

ゼミ内容

□ B4　卒業設計テーマ発表

□卒業設計中間発表

■板部　／　「故郷を思いながら」

・ 敷地　福岡県朝倉市
・ 空洞化したには、街らしさを感じない。コンパクトシティ化することでコミュニティを取り戻す。
> コミュニティを取り戻すにはどうしたらよいか？敷地は良いがコンテンツがない。

■中林　／　「まちのえき」

・ 敷地　鶴見
・ 外国人が多く住んでいて、そのための施設はあるが活用されず、繋がりや関係性がない。
> 漠然と繋げても意味が無い。何が問題で何と何を繋げたいのか考える。
> 鶴見線も商店街も生きているが行かないのはなぜか？

■渡邊　／　「New Kugenuma Tourism」

・ 敷地　鵠沼
・ 道を細分化することで回遊性を高める。
> 細分化してしまうと道が狭くなり不便になるのではないか。
> 何が問題なのかマップに示す。防災についての勉強。

■落合　／　「しわという場所」

・ 拠点が点々と繋がっているのは、しわではない。線状に繋がった拠点がしわをつくり出している。
> 点と線はしわではないのか？日本的なしわ＝線状というのは良いが、今回の案は考え直し。

■大越　／　「離れながらもつながる障害向き合い施設」

・ 発達性協調運動障害者向けの施設を考える。会社＋ショートステイ＋隠れ家などの複合施設。
> 建築的なことを考える。日本ではまだ障害を個性だと考えていない。作らなきゃいけないものをどうやったら作れるのか。

■玉江　／　「港の風を感じる市場」

・ 敷地　横浜中央卸売市場
・ 浜中央卸売市場は、運営時間の違いなどから、地域と切り離された場となっている。開かれた市場にすることで、地域に馴染んだ市場にする。
> 市場が閉じているのには、鮮度の問題また匂いの問題などがあるそれを開くことは可能なのか？敷地の規模が大きすぎる。

■高橋　／　「都市化抑制計画」

・ 敷地　東中野
・ SNS などの発達により都市化し希薄化したコミュニティを取り戻す地域センター
> 一度考えを捨てる。

■中林　／　「まちのえき　小さな駅が繋ぐつるみ多文化コミュニティ」

・ 沖縄文化による特徴的な商店街沿いの住宅街に街区単位の集合住宅をつくるプロジェクト
> 集合住宅と言わず、街区ごとに生活の一部となる共有するなにかを考える。
> 一つでは駅にならないので複数つくり、それらをネットワーク化していく。

■落合　／　「皺をつくる建築」

・ 地区センターと地域ケアプラザの複合施設の境界を皺を使い解決するプロジェクト
> 落合は皺のどんなところに興味を持ったのか？曖昧なものを作ればいいのか？物理的な皺を作ればいいのか？
> 建築に皺を寄せるのか、都市に寄せるのか、事例もないから何も伝わらない。

■相良　／　「ダンスの居場所　うつ病×perfoming arts center」

・ うつ病患者にダンスを習ってもらい、表現する事を学び、うつを直してもらうプロジェクト
> ダンスのジャンルを絞る。

> 問題意識が弱い。
> やりたい事を建築的に伝えること。

■清水　／　「崩しを用いた建築」

・武道における「崩し」を建築化することで、詰め込まれた都市生活にモノだけでなく、様々な「コト」を許容する余地のある美術館をつくるプロジェクト

> 武道における崩しはいいがその崩しまでの過程が大事、一度柔道をやってみればいい。
> 大都市の新宿につくるということは、それなりの魅力を持ち、大勢の人をさばける美術館でなくてはならない。
> 崩しから一度頭を離して考える。
> 美術館についてのディフェンスを固める。ある程度のリアリティは必要。

□総評

・都市からやる人はその街のことをきちんと理解する。空間からやる人は自分の言っている抽象的な概念を具体的に説明する。プログラムからやる人は自分がこうあるべきと思う建築を作るための方法等をきちんと示して行く。まずはそういったディフェンスをきちんと固めておかないと攻撃は出来ない。

吉松研究室　第 16 回議事録

日時　　：2012 年 8 月 2 日　木曜日　13:25〜18:30
場所　　：山田記念室
出席　　：M2　加藤　田口　細金
　　：M1　金子　増井(研究生)
　　：B4　板部(記)　大越　落合　相良　桜井　清水　高橋　玉江　中林　山田　渡邊(記)
欠席　　：なし

ゼミ内容

□ B4　卒制テーマ発表
□ M2　修制テーマ発表
□ M1　発表

□卒制テーマ発表

■清水　／　「崩しを用いた建築」

敷地：銀座（中央通り、六丁目辺り）　プログラム：美術館、博物館、図書館
・ 周辺の敷地に対して崩しを用いた建築をつくる。崩しを用いることで親しみを持たせ、内外や空間同士が連続性をもつようにする。
> 漠然としているので、次の一歩に進むこと。

■高橋　／　「非日常建築　多認識領域による空間の連続」

敷地：新宿　プログラム：美術館、公共施設、SOHO
・ ひとつの大空間に居ながらも、連続した空間のうちの一つにいるような建築をつくる。空間に連続性を持たせることで、都市の違った顔をつなぎ混在した魅力を感じさせる。
> 自分のしたいことをはっきりとさせる。

■相良　／　「色気のある空間」

敷地：渋谷、六本木　プログラム：風俗営業や性風俗営業の店で働く人びとのための支援施設
・ 新たなカルチャーの発展場として、若者や夜の街で生きる人々の生活が豊かになる建築をつくる。
> キャバレーやキャバクラなどの定義等の社会的知識が足りていないため、曖昧になっている。

■桜井　／　「距離感のくるう建築」

敷地：あざみ野　プログラム：集合住宅、住宅
・ 距離感のくるう空間によって人と人との関係を再構築する建築をつくる。
> あざみ野をどうしたいのか考える。。

■板部　／　「人びとのつながりを生む建築」

敷地：福岡県朝倉市甘木　プログラム：生涯学習施設、学童、コミュニティーセンター、バスターミナル
・ まちらしさや個性を発信し、コミュニティを生む建築をつくる。アーケード商店街としての面影や、雰囲気が残るようにし、建築としてもつながりをもつようにする。
> 地方の少子化が進んでいる場所に学童を提案するのでは意味がない。
スカスカになったまちをコンパクト化していくべき。

■山田　／　「行間を読む　空間の関係性の認識によるつながり」

敷地：大磯　プログラム：公民館、子育て支援施設
・ 建築と地域が「間」によって関係性を持ち、人々がお互いに認識することでコミュニティが生まれ住みよい街にする。
> １３期川福のように大磯の問題から進めること。そのためには、大磯についてきちんとサーベイをすることが必要。
大磯のまちを良くするということがゴールで、それに最後に DR での自分自身の内容をプラスさせる。

■渡邊　／　「ファサードを感じない建築」

敷地：藤沢市鵠沼　プログラム：生涯学習施設、小学校、集会場、集合住宅、大学
・ 藤沢市鵠沼地区は北側は発展しているが、南側は発展が乏しく北側は近年発展しているが、それに比べ南側は未整備の都市計画道路、未整備の都市公園が多く地区内のネットワークが不十分になっている。また、狭あい道路や行き止まりが多く、生活道路が不十分でもあり、近年の宅地細分化により、更に地震災害等への危険度が高まっている。そこで市民のネットワークが作れるような建築をつくる。
> ５期にも湘南近くで提案している。
湘南のような場所は湘南のファンがいるので、仮に高齢化や少子化が起こったとしても、すぐにはまちが衰退しない。

■中林　／　「暮らしの拠点」

敷地：鶴見　プログラム：水上バスのバスターミナル

・ 国道駅と鶴見小野駅の間は住宅地となっており、国道駅周辺には生麦魚河岸通りがあり工業化が進むにつれ店舗が減少している。だが、国道駅側は逆に工業化が進むにつれ発展している。そこで繋がりがなくなったこの２つの駅をつなぐ鶴見小野側水上バスターミナルを設計する。

> ただ水上バスに自分が乗りたいだけではないのか。

■玉江　／　「解放空間　変化を認識する建築」

敷地：　プログラム：子育て支援施設、大学

・ 先入観により縛られている街に対して、大学や施設をつくることで人を集め変化を認識できるようにし、縛りからの解放を行う建築を設計する。

> ストーリーが立てられていない。
都市のストレスをどうやって解放するのか。

■大越　／　「離れながらもつながる空間　一人になれて一人ではない場所」

敷地：相模原市中央区相模原　プログラム：

・ 地域とつながりをもつことで、「障害者」という言葉の中にある、あらゆる壁を超え、障害を身近に感じネットワークのように離れながらもつながっているイメージのものをつくる。

> 今後はみんなで高齢者を支えて行かなければならないので、まちのみんなで高齢者を見守って行くようなものをつくる提案はあり。
今後は学歴が大学卒のような高齢者も増えて行くということを踏まえて考えて行くこと。
学童であれば、どういった問題があるのか。
ディフェンスの面が少ない。

■落合　／　「シワが寄る空間　街の拠点となり周辺からしわを寄せる建築」

敷地：二俣川　プログラム：大学

・ 敷地の二俣川には様々な公共的な建物が多く、駅周辺には店がいくつかあり商業が中心で、駅周辺以外は住宅街である。相鉄線で横浜を１本で行け交通の便は良い街である。開発が進み昔の二俣川はなくなってしまう。そこで、昔を忘れないためにも活気があふれるフォルテ商店街に戻すことで、新たなシワをつくれないだろうか。

> 踏み込みがあまくて、まだ作りたいものをシワと呼ぶ必要がないような感じがする。
新しい大学像として、学生が若者だけではなく、その親世代が学生として大学にいることが普通になる。

□総評

・ まずはシナリオを何本も作ってみること。

吉松研究室　第 15 回議事録

日時　　：2012 年 7 月 19 日　木曜日　11:00〜
場所　　：山田記念室
出席　　：M2　加藤　田口　細金
　　：M1　金子　増井(研究生)
　　：B4　板部　大越(記)　落合　相良　桜井　清水　高橋(記)　玉江(記)　中林　山田　渡邊
欠席　　：なし

ゼミ内容

□ B4　DR 研究報告書提出
□ M1

□デザインリサーチ発表、研究報告書提出

■板部　／　「プログラムから考える建築」

・ レムのプログラムと自身の小学校課題で考えたプログラムとの比較。

> レムのプログラムをもう一度調べ直し、図やダイアグラムをイメージで書かないようにする。

■山田　／　「行間を読む」

・ 連続した人つながりになっているようなものをつくることで、ストーリーを作る。
・ ストーリーを感じ取ることで居心地の良い空間を作れるのではないか。

> 美術館のように順路が示された住宅は不便ではないか。
> ストーリーとは起承転結がはっきりしていることではないか。

■落合　／　「しわのよる建築」

・ しわのよる空間とはひとびとがあつまれるようなくうかんではないか。
・ 隙間に人が入ることでそこがが都市のしわなのではないか。

> 建築のしわとはなにか。
> 空間的になんでしわが寄っているのかを考える。

■玉江　／　「解放空間」

・ 汚れることで開放を感じた。都市の中で解放空間を見つけ出す。

> 解放を感じるのであれば何に縛られているのか。

■桜井　／　「距離感のくるう建築」

・ 距離感のくるう空間によって人と人との関係を改善させる。

> どう改善するかの分析とそのレファレンスをあげる。
> 森がなぜ距離感のくるう空間なのか。→相似性が関係しているから。
> トリックアートが距離感に活かされるのか、錯覚のメカニズムの調査。

■相良　／　「色気のある建築」

・ 腰のうねりや、色気に興味を感じた。

> まちにはルールがあり、様々な変化をつけることで個性が生まれる。

■清水　／　「雑」

・ ランダムな感じを作りたい。

> すべてが崩れていたら崩れているかわからない。
> 崩れていない部分（基準）をつくって崩れを際だたせる。

■大越　／　「離れながらもつながる空間」

・ 微妙な違いなものが集まることで、全く違った空間ができるのではないか。
・ ロレックスラーニングセンターは、ワンルームだけど複雑な視線と入り込む自然の風景でゆるやかにつながる。

> 空間の研究が甘い。
> 小学校の課題をもとに自分がやりたい空間を考える。

■中林　　／　「都市と駅」

・ 鶴見駅周辺は工場によって栄えた一方、衰退してしまっている。

> 現状の分析をひたすらすること。
> 都市的なこととして、街の記憶や思い出をどうやって現代に共有していくかが大事。

□総評

・ 来週は展示をするのでしっかりと４年生レベルの模型とパネルを作ってくること。

□次回ゼミ

・ 2012 年 8 月 2 日　15:10〜20:00　山田記念室

吉松研究室　第 14 回議事録

日時　　：2012 年 7 月 12 日　木曜日　15:10〜19:30
場所　　：山田記念室
出席　　：M2　加藤　田口　細金
　　：M1　金子　増井(研究生)
　　：B4　板部　大越　落合　相良　桜井　清水(記)　高橋　玉江　中林(記)　山田　渡邊
欠席　　：なし

ゼミ内容

□ B4　デザインリサーチ A1 パネル提出
□ M1

□デザインリサーチ

■山田　／　「行間を読む」

・ 行間は空間同士の関係性
・ 住宅に間をつくる
・ 現代の住宅は個別化している
・ 間によって関係性をつくる

> シナリオを先にきちんと作る
「行間を読む」を建築の中で表現し直す

■清水　／　「雑」

・ 複数のものが交わる雑は昔の襍の意味に近い。
・ 単体で成り立つ近年の雑さと混合させることにより、襍という美しさとしての個性をつくる
・ 雑を用いて窓や壁を再定義することができるのではないか

>原形が想起されなくては雑は生まれない

■玉江　／　「仮」

・ 古い日本家屋に感じられる包容に興味を感じた
・ くぼみ、傷
・ 親しみ、包容

> 答えを急ぎ過ぎて話を寄せ集めているだけ
モチベーションが雰囲気っぽい

■落合　／　「都市のしわ」

・ 都市は余計なものがなくなり平なものになっている
・ 都市に居場所をつくり、人と人をつなぐネットワークをつくる
・ 人の気配をしわに感じた

> 定義がつめられてない
要素をとりだす

■中林　／　「都市と駅」

・ 駅概念の変化が起きている
・ 単に鉄道機関を目的とする場所ではない
・ 駅とは都市の出入口

> みんなと違うアプローチでいい
ただ調べるだけでなく、分析する
町の構造やダイアグラムをつくる

■大越　／　「つかのますみか」

・ 障害者目線で都市を見ると、孤独に感じた
・ フラットな空間は逆に恐く感じた
・ 人から少し逃げ隠れする場所が必要
・ 喜怒哀楽も心理的な障害だと感じた

>障害にはいろんな種類がある
ユニバーサルデザインとバリアフリーはなにが違うのか

■高橋　／　「ひとつなぎ」

・ 構造技術の進歩が空間のあり方を希薄なものにしている

>何に興味があるのか曖昧
ラーニングセンターは構造的な建築ではない

■相良　／　「色気」

・ 緩やかにつながれた空間に多様な表情がある

>「魅力」と何が違うのか
色気と魅力は同じものなのか
魅力がない人もいるのではないか

■板部　／　「相反するプログラムをぶつけることで生まれる入りやすい空間」

・ ふらっと入って出て行ける空間のなかに、視界の抜ける形の部屋を置いて行く
・ 建築とアート作品の一体性が強まり、分棟にすることで、ひとつひとつの棟が独立しているため各作品のプライバシーもつくりやすい

>分棟にするだけでは安易
どういうプログラムに興味があるのか

■桜井　／　「距離感」

・ コメントなし

■渡邊　／　「粧う建築」

・ 「はずし」とは元からある表現に変化を加え、意識、視線を多方向に向けさせること
・ 本来の機能、形は保たれつつ、別の要素が入り込むことによりさらに際立たせる
・ 「テーラリング」が衣服のシルエットの構築に不可欠とされている

> 答えがでていない
言葉が違うだけで、内容は同じようなことはたくさんある
ファッション用語で説明しても内容は普通
自分の言葉で説明する

□総評

・ これまでとは違う新しいプログラムをつくらないといけない
・ これまでの常識を考えなおして、公共性とは何か考える
・ 空間がプログラムに左右されない?
・

吉松研究室　第１３回議事録

日時　　：2012 年 7 月 5 日　木曜日　15:10〜19:30
場所　　：山田記念室
出席　　：B4　板部　大越　落合　相良　桜井(記)　清水　高橋　玉江　中林　山田(記)　渡邊
欠席　　：なし

ゼミ内容

□ B4　デザインリサーチ　パネル提出
□ M1

□デザインリサーチ　パネル提出

■板部　／　「ゆるやかにつながる空間」

> ゆるい建築をまとめると良かったのではないか。

■相良　／　「色気」

・ 見返り美人は複層視線により色気を感じる。
・ 色気は無意識のうちに人から発せられるもの。
・ 入り口が見えない空間は感性の領域であり、色気である。
・ 目的の前に空間を作るのを手法とする。

> 都市や建築の色気何なのか。色気と魅力は同じなのか。
複層視線をもっと分析するとわかりやすく説明できるはず。
写真から自分が引っかかるものを見つけ、色をつけたり消したりしてみる。

■渡邊　／　「はずし」

・ 空間とファッションが混ざり合う事で関係は成り立っていた。
・ 「はずし」とは元からある表現に変化を加え、意識、視線を多方向に向けさせること。
・ 加算、減算を手法として魅力をつくりだす。
・ 守るシェルターとしての建築＝受け身ではなく、補い与えるシェルターとしての建築。
・

> どのくらいくずすのかを考える。

■中林　／　「都市と駅」

・ 駅によって街に大きな影響を与えている。
・ 日本の再開発の問題点はいろいろな視点である。
・ ヨーロッパにおける地域開発と交通施設はコミュニティの問題を中心に考えていて、問題の視点はいずれも住宅問題によるものである。
・ これからは街にコミュニティを生む駅が必要であり、それによって街と人を結ぶ。

>

■清水　／　「雑」

・ 単純なものは結局一つであるが、雑が含まれるものには無限のバリエーションがある。
・ 雑な方が親しみがわき、いくつもの表情を持っている。
・ 線に揺らぎを与えることでアクティビティが生まれる。
・ フリーハンドで図面を描き、雑な線をそのまま建築家すると、時として少しの誤差や無駄がいくつもの表情を生み出す。

> 雑さは人によって異なるので決めるのは難しい。
手書きで終わらさず、手法を見つける。
雑と混沌は同じなのか。

■山田　／　「行間を読む」

・ 行間を読むとは日本的な感覚である「間」を意識している。
・ 「間」は明確な境界のない、空間同士の中間領域である。
・ 明確な領域がないためコミュニケーションの場にもなりやすい。
・ ストーリー性のある空間を作り、その中に中間領域を作って連続した関係性を認識させる。

> 何が間を引き起こす要素なのか。
間があるかどうかは行ってみないとわからない。
壁があるから間がないというのは単純。

■落合　／　「Wrinkle」

・しわは緊張とは違う親しみや馴染むものに近い。
・都市のしわとは、偶然的に生まれるものではなく、周辺環境を理解し建築などを作ることで生まれる。
・しわの溝は境界であるため領域ができ、そこは人にとって居場所的な存在である。
・しわの意味でもある歪み、ねじれを空間のモデルとする。

> しわ、緊張の違いがよくわからない。
伝えようとしているしわが何なのかわかりにくい。
空間に落としたとき都市と建築とどこが違うのか。

■高橋　／　「構造認識空間」

・構造自体が空間認識に影響しているのではないか。
・ルーズな構築から微細な構築へ構造の考え方が変わると共に空間構成も変わり、構造が建築と同化することによって新しい空間が作られてきた。
・構造を不可視化された空間を作ることで空間認識に新しい変化を与えるのではないか。

> 設計者の意図を踏まえて分析する。
いろいろな言葉を使い過ぎない。

■大越　／　「小さな灯の抑揚空間」

・大都会を一人で歩いたとき孤独感を感じた。
・多様さと意外性を備えた空間と落ち着きがあり安らげる空間が一緒になったとき初めて小さな灯がともる。
・喜怒哀楽の感情は抑揚に置き換えられる。
・孤独を感じる暗闇都市に家でもあり同時に都市でもあるような抑揚空間を提案する。

> モチベーションが多く、本当にやりたいことが何なのかわからない。
全部が観光地になればいいのか。
抑揚空間というのは自分の感情なのか、都市にそのような特性があるのか。

■玉江　／　「仮」

・仮によってできた空間が私達と都市をつなげているのではないか。
・日本家屋のような屏風や襖で仕切られた仮設的な空間は、使用方法や行為によって様々な空間に変化する柔軟性を持ち合わせている。
・仮設的な小さな建築は都市の急速な変化に柔軟に対応している。
・仮設的な部分を連続化し空間化していく。境界が曖昧なため無数に空間が広がる。

> 仮の概念の説明を入れる。仮の概念を追求する。
仮設と仮の違いを明確にする。
自分の中で興味が絞れていない。

□総評

・皆あまり進んでいなく、三週間前の方が良かった。
・無理にまとめようとしない。
・素朴な疑問の方が良い。
・自分はどんなことに疑問を持っていて、歴史的にどういう経緯をたどってきたかを調べる。
・言葉の定義の中のぶれをなくし、抽象的な言葉を使わない。
・インターネットの中には答えはない。自分の経験や体験したものからまとめる。
・

吉松研究室　第 12 回議事録

日時　　：2012 年 6 月 28 日　木曜日　15:10〜19:30
場所　　：山田記念室
出席　　：B4　板部(記)　大越　落合(記)　相良　桜井　清水　高橋　玉江　中林　山田　渡邊
欠席　　：なし

ゼミ内容

□ B4　荻窪まちづくり　アイデアコンペ
□ M1

□荻窪まちづくり　アイデアコンペ

■相良　中林　山田　　／　「タウンセブンに行こう」

・ 荻窪の問題とされている南北の問題こそが荻窪の特徴である。
・ 南側は南北の分断により守られている。
・ 北側は北口開発によって商店街が衰退してしまって差がうまれてしまった。
・ タウンセブンを多く利用している人はたくさんいて商店街はタウンセブンに勝てない。
・ タウンセブンの利用する人たちが通る道に商店街を移動させる。

> 趣旨＝タウンセブンにいく間に何かさせたい。
商店街の可能性を生み出すために何をしたのかが全く分からない。
荻窪の分断を特徴とすることで・・・とあるが、なぜそれが特徴なのかが分からない。

■清水　桜井　板部　　／　「アニメの街になる荻窪　銀座商店街侵略計画」

・ 荻窪はアニメの会社が駅周辺に多く、アニメを押しているのに知られていない。
・ 提案はアニメを使い、関われるようにアニメの木をつくる。
・ 荻窪にはアニメの多くの制作会社があることもあり、アニメの聖地として一部の人には扱われている。しかし、アニメで盛んであることを地域の人をはじめ大半の人は知らない。
・ 荻窪をアニメの街として多くの人に知ってもらうために、荻窪にアニメの木という拠点となるものをつくり、そこからアニメを発信していく。

> なんでアニメなのか？ディフェンスを固める。

■渡邊　玉江　高橋　　／　「線路は続くよどこまでも☆」

・ 荻窪の人たちは地下道がある認識が薄れている。
・ 歴史を辿ると昔は賑わいがある大切な通りだった。
・ 住人に伝えるために地下道の入口につなげる道をつくる。
・ 地下道をつなぎタワーをつくる。

> 何が言いたいか全く分からない。歌のタイトルじゃない。

■落合　大越　　／　「見つけたあの場所、いつもの場所。-コミュニティーの誘発による荻窪地区再編計画-」

・ 通りを場所に変える提案。
・ 場所＝公園とし、子供たちの遊ぶ場をつくる。
・ 商店が漏れ出している場所の地面に色を塗り、回遊性を生ませる。
・ 通学路に安全な道を再編。

> いつもの場所がどうしたのか分からない。
それがどうしたのかを短く言う。
「新しい／かっこいい」は自分たちが言うのではなく、周りが言う言葉だから使うのはおかしい。
アフターが知りたい。ビフォーはもう知っている。

□総評

・ 設計の趣旨（提案の趣旨）をそのままかく。いかに“提案の趣旨＝タイトル”であるかが大切。
・ コンペは自分たちの意図を相手側にきちんと伝える。
・ 少し離れた場所から自分たちのパネルをみて、提案を口で説明できるくらい分かりやすいか。
・ コンペの時はメリハリが大事。
・ 少し離れた場所から見える部分（トップ画、タイトル、小見出し）で興味を持ってもらえれば、細かいところまで見てくれる。映画のポスターなどもそういう風に 2 段構成になっている。遠くから見ておもしろそう！と思ってもらえたら詳細まで見てくれる。
・ メインになる絵をつくる。A1 の２／３くらいなる絵をつくる。絵をつくることに時間をかける。
・ 色数を減らす。３、４色が限界。黒は強すぎるから使わない。
・ 目立たせたい部分を一番強く。凝った色は使わない。

吉松研究室　第 11 回議事録

日時　　：2012 年 6 月 21 日　木曜日　15:10〜19:30
場所　　：山田記念室
出席　　：M2　加藤　田口　細金
　　：M1　金子　増井(研究生)
　　：B4　板部　大越　落合　相良　桜井　清水　高橋　玉江　中林(記)　山田　渡邊(記)
欠席　　：なし

ゼミ内容

□ B4　荻窪まちづくり　アイデアコンペ　デザインリサーチ
□ M1

□荻窪まちづくり　アイデアコンペ

■相良　中林　山田　／　「趣味の場所があるだけで」

・ 荻窪の問題とされている南北の問題こそが荻窪の特徴である。
・ かつての商店街とは、人の生活に深く関わっていたが、大型店舗や青梅街道の分断によって、なくなってしまった。
・ ３つのゾーン分けした商店街に、趣味の場所を提案する。
・ 商店街に目的がなくても、気軽にこの場所を使っていくことで、商店街の活気を取り戻す。
> 過去に荻窪の動線を調べていたのにそれが生かされていない。
１、２、３と分けたがそれぞれ何のゾーンなのだろうか。
分断が荻窪らしさというコンセプト倒れになっている。
囲碁などでどうして分断の問題が解決できるのだろうか。
商店街それぞれの成り立ちを整理する。
都市の形成を考える。
かつてあったものを広げる方が受け入れやすい。

■清水　桜井　板部　／　「育てようアニメの聖地 OGIKUBO キタ 育てよう！アニメの木、アニメの街」

・ 荻窪はアニメの会社が駅周辺に多く、アニメを押しているのに知られていない。
・ 提案はアニメを使い、関われるようにアニメの木をつくる。
・ アニメの木は下から古く上に上がるにつれて、だんだん新しいアニメとなっていく。
・ 寸法はまだ決まっていないが、およそ 5、６メートル。

> 聖地はその場所によって漫画が違うので違う話の漫画の聖地をわからせるにはどうしたらよいか。
木はいったいどこに配置するのか。
先週言っていた地下の案でアニメを増やす話はどこにいったのか。
聖地と聖地の間にアニメの木を置けばよいのではないか。
試着室を商店街から借りる事でコスプレ祭りとして機能できるのではないか。

■渡邊　玉江　高橋　／　「あいまいな境界」

・ 荻窪駅は明治 24 年から街の骨格を形成し、荻窪の拠点として存在していた。だが、だが、線路の複線化や踏み切りの閉鎖に伴い、駅による分断の色が濃くなった。
・ フェンスの格子の疎密を操作することで、線路を不可視化し荻窪駅の南北にある商店街の視線を通し、荻窪駅がまちの拠点であるということを認識させる。
・ 銀座街の一部を減築し、パスを通す。つながった視線は互いに関係を持ち、境界を曖昧にすることで駅に対する分断という意識を弱める。
・ フェンスの形を変形させ居場所をつくり境界をあいまいにする。
・ フェンスを筒状の物にし、食物の木、アニメの物を中に入れる。

> 荻窪の歴史の絵が分かりづらい。分かりやすくダイアグラムをかく。
フェンスの向こう側に意識がむくことで、なんの意味があるのか。
フェンスの案と、減築した商店街と、かつてあった踏切があった場所の話からストーリーがつくれないか。
南北をつなぐ今あるパス（地下道）をわかりやすくする。
拡幅させるのか、増やすのか、わかりやすくするのか、通りやすくするのか、それによって都市的な問題を解消する。

■落合　大越　　／　「見つけたあのばしょ。いつものばしょ。」

・ 通りを場所に変える提案。場所＝公園とし、通りを標識で認識させる。
・ 商店が漏れ出している場所の地面に色を塗り、回遊性を生ませる。
・ 分断されている北と南を大きな橋をかけて繋げる。（商店街＋商店街、商店街＋住宅街、住宅+街＋住宅街。）また、階段で上層に上がり、色でも繋げる。
・ 放置自転車の問題があるので、白線の上に、駐輪が出来る提案をする。

> 通りを場所に変える案と商店街に色をつける提案は一緒にできるではないか。
通りを場所に変える案だけでは弱いのではないか。
通りの案と色の案をくっつけてばよいのでは。だが全部ではなくやるべきとこだけ。
漏れ出している部分に子供の目線の提案をすればそれが新しい荻窪のネットワークとなるのではないだろうか。

□総評

・ すべてのパネルの文字が小さいために見にくい。
・ また文章が多くてわからないのでぱっと見てわかるようなダイアグラムを書く。
・ サブタイトルがないので起承転結にサブタイトルを書く。
・ パネルの凡例の色使いは、多くて３色まで。５、６色は多すぎる。
・ サブタイトルだけで、なにがしたいのか分かるようにする。
・ 提案が１枚の絵で伝わればもっとよい。

吉松研究室　第 10 回議事録

日時　　：2012 年 6 月 14 日　木曜日　15:30〜17:00, 18:30〜20:00
場所　　：山田記念室
出席　　：M2　加藤　田口　細金
　　：M1　金子　増井(研究生)
　　：B4　板部　大越(記)　落合　相良(記)　桜井　清水　高橋　玉江　中林　山田　渡邊
欠席　　：なし

ゼミ内容

□ B4　荻窪まちづくり　アイデアコンペ　デザインリサーチ
□ M1

□荻窪まちづくり　アイデアコンペ

■相良　中林　山田　　／　「タイトルなし」

・ 荻窪は駅や青梅街道で町が三つ分断されている。
・ これが荻窪の特徴なのではないか？
・ 三つの分断を特徴づけられるように照明を変える。

> 問題意識は？
照明を変えてどうするのか？
コンセプトはいいが、アイデアは・・・
ふざけたアイデアでもいい。

■清水　桜井　板部　　／　「アニメの聖地」

・ 荻窪にはアニメスタジオが多く、アニメを使って南北分断の解消を目指す。
・ アニメのファンとファンが交流する場を作る。
・ アニメ会社、聖地をプロットしてアニメの通り、一本道を作る。
・ 提案が通る地下道は以前アニメの展示があったため、その展示を復活させる。
・ 元々あるカフェを交流の場として使う。
・ そこに巡礼ノートを置き、簡単に交流出来るツールを場に提供。

> 一本道は聖地を通らなくていいのか？
地下道に通すという事じゃなくて、駅中に通す事じゃダメなのか？
もしかしたらアニメを作っている会社に何かをあげれば、アニメの会社だとわかるのではないのか。
地下道だけでアニメの商店街が作れるのはおもしろい
ストーリーは一番いい。
だがアニメの会社は関係ない。
アニメに撮って大事な場を探す。
商店街をつないでいるのがいい。

■渡邊　玉江　高橋　　／　「タイトルなし」

・ 南北は分断しているから荻窪らしい。
・ 昔は GL ラインでの移動は可能だったが、今は不可能になってしまった。
・ 南北を分断している駅周辺のフェンスに注目したところ、そこには無機質な空間が広がっていてつまらない。マイナスの面ではなくプラスの面で変われるはず。
・ フェンスに対して、線路沿いにあるヴォイドに機能をもたせ、さらに住民が一緒になって参加できるアクティビティを置く提案。（広場、ギャラリー、交流場所など）

> フェンスに提案するのは良いが、提案が弱い。
広場をつくれば人が来るというのは、幻想である。
案をもっとクリアにしていくことが大事。

■落合　大越　　／　「今日はこの道、明日はあの道」

・ ゾーごとに特徴があるが、道路の無機質さがそれをかき消している。
・ 廃れたものも、きれいなものもあるが、道はすべて同じコンクリート。
・ 道にキャラクターを持たせそれに合った通りの名称をつける。さらにそれを認識させるためのオリジナルの標識を提案。

> 名前をつけて、看板をつけるだけでは弱すぎる。
名称の理由も街の変遷にゆだねられている。
どうやって色がぬれるのか、どういう理由、方法で色がぬられるのか。
その方法は、身の回りにあるはず。難しいことではない。

□デザインリサーチ発表

■板部　　／　「ちらりズム」

・ 大胆な露出ではなく、ちらりと垣間見える肉体の一部こそ魅力があると思う。
・ 見えそうで見えないちらリズム。
・ 明るいところから暗いところに変わるところがちらリズムではないか。
・ 先が見えにくくなっている曲線は、よりいっそう行きたくなる。

> 先が曲がっていればいいのか？
直角に曲がった方が先が見えないんじゃないのか？
どうやったら人は中に引き込まれていくのか
イメージはだめ

■山田　　／　「行間を読む」

・ 行間を読むということには、様々な用途がある。
・ １、人との関係。
・ ２、空間（時間と心理）　伸縮自在性、変幻自在性を持っている。
・ 行となる様々な時間や心理を体験することで、体験したそれぞれの人が違うことを考えて自分だけの間を構成する空間。

> 二枚写真を用意して説明する。
抽象的な概念を抽象的な概念で説明してはダメ。
具体的に、言葉を曖昧にしない。
間は空間でもない。
建築の行間とは？

■落合　　／　「しわ」

・ 一般的にしわとは、たるんだり縮んだりして、細い節目ができたもので、それは都市の中にも存在していると感じた。
・ 地域になじんでいる建築がしわなのではないか。
・ 都市の中で美だけを追求して建てられた突出した高層ビルなどはしわではない。
・ グリーングリーンのように地面からめくりあがったような建築はしわである。

> ヘルツォークなどは長年しわの事を考えている。
同じ形をゆがませても位相的には同じ。
違う理論。レファレンスを持ってくる。

■玉江　　／　「仮」

・ 輪郭は残っていて、空間としての認識ができ、外部と内部との境界が曖昧なヴォイド空間に魅力を感じた。
・ 仮は、時を経ても抗うことなく移り変わる様のこと。自然の流れによってできたものを仮というのではないか。
・ 空間を限定しないのが仮なのではないか。

> モダニズムは仮設的
日本建築：日本は仮設が本設

■桜井　／　「森〜距離感〜」

・ 森の中でも原生林が好き。
・ 森のような距離感を失うような空間に興味を持った。
・ 神奈川工科大学のような柱の高さや並び、太さがバラバラな構成は距離感を失っているように感じた。

> 距離の話はおもしろい。
想定するからズレが生じる。
思い込み（常識）によって錯覚が生まれる。
何の為に距離感が狂わせるのが必要なのか。
どんな空間をつくりたいのか、問題意識を持つ。

■相良　／　「見返り美人」

・ 相手の感性をくすぐることが魅力であり、魅惑であると感じた。
・ エロい建築が面白いと感じた。

> Sexy は建築には使わない。性的イメージが強いから。
たまに使うのは seductive（魅惑的、誘惑的）
相手を魅せるという点では建築的にはみんな建築家が考える。
エロではない。

■清水　／　「雑と崩れ」

・ 都市は雑と一定の変化であり、くづれて壊れているものを崩壊と呼ぶ。
・ 崩壊は、原型が見えないものである。
・ 元に戻ることを想定できるから、親しみを感じる。
・ 正確、崩れ、崩壊をそれぞれ線を引き、自分なりの定義を考えていく。

> 崩れて壊れているもの。元に戻る事を想定出来るから親しみを感じる。
レファレンスを探す。
生け花もわざと崩す

■渡邉　／　「服」

・ 衣服によって、人は自分の体型のバランスを整えていると感じた。
・ 例えば、サルエルパンツは足を短く見せ、上着で固める。A ラインの体型ができる。
・ ヘルシンキ大聖堂は服と皮膚の関係に近いのではないか。
・ 建築と皮膚との間の関係性の中には何かがある。

> なぜ虚・実、両方ないのかを示さなければいけない。
単純な論理では吹き飛ばせない。
モダニズムを批判している時ではない。

■高橋　／　「ルーズな構築」

・ ルーズな建築とは、構造、ゆとりのある様なのではないか。
・ 例えば、代々木体育館はルーズな構築があるといえる。その理由は、合理的な所につけるのではなく、美的感覚であるということと、同じ自由曲面でも違った空間をつくりだしているから。

> ルーズな空間とは？
曖昧とは何が違うのか

■大越　／　「ゆらぎ間」

・ ゆらぎの背景は、明るいものではなく暗いものなのではないか。
・ ゆらぎとは、逃げ場や隠れられる空間のこと。
・ 複雑な空間の中には、ゆらぎは多く存在しているがそれを単純化しようとすることで、ゆらぎぼ可能性を切り捨ててしまっている。
・ 壁に囲われている空間ではなく、壁がなくても一人だと思えばそこはゆらぎの間というのではないか。

> 扇風機も自然の風のような物＝ゆらぎ
規則性がないようである。
最後に少しだけ揺るがす。
アリゴリズムでやろうとしている人も居る。
空調機・車でも揺らぎが使われている。

■中林　／　「都市と駅」

・ 駅は人をはけるために通路があり、人を滞納させる店舗である。
・ すぐに行けてしまうのはつまらない（ディズニーランドなど）。
・ 昔の駅は、人が集う交流点であり、文化、生活、情報という人々のコミュニティーがあったのではないか。

> 駅がセンターではない駅？
バスターミナルが駅の所もある。
どういう機能が駅に残っているか。
人が集まる場所がどういうものなのか。

□総評

・ どんな空間を作りたいのか？
・ どういう物を目指すのか？
・ 問題意識を持つ
・ いかに無駄をつくり、無駄を無駄じゃないと思わせる。
・ 専門用語辞典などもいい。

□次回ゼミ

・ 2012 年 6 月 21 日　15:10〜20:00　山田記念室

吉松研究室　第９回議事録

日時　　：2012 年６月７日　木曜日　15:30〜19:00
場所　　：山田記念室
出席　　：M2　加藤　田口　細金
　　：M1　金子　増井(研究生)
　　：B4　板部　大越　落合　相良　桜井　清水(記)　高橋　玉江　中林　山田(記)　渡邊
欠席　　：なし

ゼミ内容

□ B4　荻窪まちづくり　アイデアコンペ　デザインリサーチ
□ M1

□荻窪まちづくり　アイデアコンペ

■相良　中林　山田　　／　「商店街の特徴と人の流れ」

・ 南北に分かれているのが特徴である。
・ 南北それぞれに一体性を持たせる。
・ 北は青梅街道による分断と客の固定化が問題。
・ 青梅街道のアーケードを屋根でつなぐことで商店街同士をつなぐ存在に気づかせ回遊性を生む。

> 問題意識が不明確。
この案では商店街を均質化してしまっている。
アーケードの形が南北で違うと行き来するきっかけにもなるのではないか？
商店街をグルーピングしてみる。

■清水　桜井　板部　　／　「歴史と文化」

・ 荻窪はアニメの会社が多いのに知られていない。
・ 住民も何気なく街のことを知れる提案。
・ 提案として、街にアニメの製作過程が書かれたラインを引く、アニメの柱、地面にマンガを塗る。

> アニメ産業が見えない理由になってない。
アニメでしかできない提案を考える。
会社自体を見せる意味がないのではないか？

■渡邊　玉江　高橋　　／　「街並の成り立ち」

・ 都市機能が発展しすぎて荻窪らしさが隠れてる。
・ 交通網の変化が一番の原因。
・ 壁に開口を開けて線路を挟んで反対側に意識を向ける。

> 壁を立てたら更に分断されてしまうのではないか？
荻窪らしさとは何か？
前回のデータを積み重ねられてない。

■落合　大越　　／　「荻窪の北と南の特徴」

・ 個性が道路によってかき消されているのではないか？
・ 標識の提案。
・ 通りに名前を付けるとともに、交通規制をし、通学路の提案もしたい。

> 雰囲気でやらないように、標識の由来を示す必要がある。
誰がその通りを管理し、綺麗にするのか？
ごちゃごちゃしすぎているように感じる。

□総評

・ シナリオをちゃんと通せるようにする。

□デザインリサーチ発表

■板部　／　「垣間見える／垣間見せる」

・ちらりの種類は２つある。垣間見るものとか今着せる物。
・見せようと思って見せるものではない。
・都市では、商店街の中にある小学校など、なさそうなところにある場ではないか。

> 分析が足りてない。みえてしまった本性とは建築で言うと失敗した例では？
だが偶発性の建築は面白い。

■中林　／　「部分と全体」

・部分は全体性を持つことでつながりができる。
・部分の寄せ集めにつながりを作ることで全体に影響を及ぼし全体が成り立つ。

> 全体、部分をどう捉えるのか？
全体から部分を見た時にどう感じるか？空間体験を含めて説明できるようにする。
部分から全体になる過程、全体にして見えるときはどんな時か？

■山田　／　「行間を読む」

・日常生活で行間を読むとは、心を読むこと。
・空間では自分なりにあり方を解釈し行動する場。
・不完全な空間を想像によって自分だけのものに構成する。

> 間の広さの間隔に決まりはあるのか？
小説の手法と行間の両方から進めていく。
ちゃんと整理する。

■清水　／　「雑」

・自然の造形が雑と言えるのではないか。
・自然の形の中にはアルゴリズムがあるのではないか。

> 自然だから雑と言えるのか？
雑と崩すの違いは何か？
評価軸をしっかりと決める。

■相良　／　「色気」

・モナリザにも使われている複層視線が独特の雰囲気を醸し出す。
・謎めいた雰囲気（情報量の少なさ）が色気につながる。

> 何がどう謎めいているのか論理的に言えるように。
服装視線はキーワードとして使えるかもしれない。
自分なりの服装視線を探してくる。

■桜井　／　「奥」

・路地空間における奥性は迷宮性。
・人を引き込むような性質。

> 奥と奥性の違いは何か？
このペースだと中間報告まで間に合わない。

■大越　／　「ゆらぎ」

・複雑の中にひそむ何かがゆらぎなのではないか？
・微妙な小さな変化に魅力を感じる。自分の気持ちは大きく変化する。

> 建築で言われているゆらぎとは何か？
ゆらぎの何がいいのか？それをはっきりさせること。

■落合　／　「皺」

・皺には法則があるのではないか。
・皺を身体的スケールにすることで場ができる。
・皺には親しみが生まれる。

> 皺の魅力とは？
皺の必要があるのか？皺にしかできないものを探す。
皺に限定しないで周りの作用から見る。

■玉江　／　「「表層」「地」とそれ以外の何か？」

・裏長屋型に魅力を感じる。
・日本の薄い建築。違う要素が重なることで空間変化が起きる。

> オリジナリティは何か？
アートなどを見るといい。

■高橋　／　「技術と芸術の統合」

・ハイテックな構造の出現により、構造に対する芸術性が変わってきた。
・自由度の高いイメージでも技術と芸術を統合できるはず。

> 自分の考えを言う。
同じ構造のものを並べて比較する。

■渡邉　／　「服と建築の個性」

・建築は固定されたフィルター、服は移動するフィルターであるが時代を超えるにつれ、その関係が薄れてきた。
・第一の皮膚＝人間の皮膚、第二の皮膚＝衣服、第三の皮膚＝住まいである。
・自分らしさを表現するもの＝被服
・人に寄り添う皮膚としての機能をもち、普遍性をもった建築をつくれないか？

> 個性と普遍性のどちらがやりたいことか？
個性で終わらせないで、自分らしさを言う。
服の何がいいのか明確にすること。
言葉に遊ばれている。

□総評

・しっかりと整理して発表する。
・みんなスライドが多い。
・絵が少ない。
・Ｂ４同士で相談すると良い。

□次回ゼミ

・2012 年６月 14 日　15:10〜20:00　山田記念室

吉松研究室　第８回議事録

日時　　：2012 年 5 月 31 日　木曜日　15:30〜17:00, 18:30〜20:00
場所　　：山田記念室
出席　　：M2　加藤　田口　細金
　　：M1　金子　増井(研究生)
　　：B4　板部　大越　落合　相良　桜井(記)　清水　高橋(記)　玉江　中林　山田　渡邊
欠席　　：なし

ゼミ内容

□ B4　荻窪まちづくり　アイデアコンペ　デザインリサーチ
□ M1

□荻窪まちづくり　アイデアコンペ

■相良　中林　山田　　／　「商店街の特徴と人の流れ」

・ 商店街はそれぞれ独立し、個性がある。
・ これが荻窪の特徴なのではないか？
・ 南側には集住が集中しているため回遊性が多いのではないか？

> 問題意識は？
何が分析で何が問題かわからない。
南北をつながない方がいいかもしれないが、しっかりと説明すること。
分析に着目した理由を明確にすること。

■清水　桜井　板部　　／　「荻窪と周辺の町の違い」

・ 荻窪にはアニメスタジオが集中している。
・ しかしアニメを活かしきれていない。

> 問題意識がわからない。
> ネットで調べられることは発表ではない。
> なぜアニメを活かしきれていないのか？

■渡邊　玉江　高橋　　／　「」

・ 路面電車がなくなり、パスが増えたことにより回遊性がなくなったのではないか？
・ 南は変化が少ないため回遊性が残っている。
・ パスを操作し昔あった回遊性を取り戻せないか？

> 結論がイメージではいけない。
過去の経緯がどうなっていたのかもっと考えること。
歴史や街の記憶を未来につなぐ案もある。

■落合　大越　　／　「荻窪の北と南の特徴」

・ ゾーごとに特徴があるが、道路の無機質さがそれをかき消している。
・ 廃れたものも、きれいなものもあるが、道はすべて同じコンクリート。
・ 道に特徴のあるものを装置としておく。
・ キャラクターを持った道路をつなげる。

> 王道の手法であるが、まとまっている。
車線の分析からも通りやすい道、通りにくい道がわかる。
街全体のバランスお買えるのもまちづくり、デザインである。

□デザインリサーチ発表

■板部　　／　「ギャップによって感じる心の揺れ」

・ ギャップとは差、隔たりのことである。
・ 違ったイメージが見られるところが好き。

> 建築とどう結びつけるのか？
変化、意外性、２面性はすべて違う言葉である。

■山田　／　「物語」

・ マンガと違い、作者の意図が読み手によって異なるところがいい。
・ 起承転結はストーリー性があり、空間の変化を感じるのと似ている。

> 問題意識はなにか？
起承転結は漫画に近いのでは？
物語性のある建築を調べてみること。

■落合　／　「余白」

・ 余白とは余裕があることである。
・ 塗り絵には余白がないが点描画には余白がある。
・ 美術館と余白を混ぜることで空間体験をさせる。

> それはほんとに余白か？
金沢２１世紀美術館には余白はあるのか？

■玉江　／　「ファサードと距離」

・ 開口によって互いに関係が生まれる。

> ファサードとはなにか？
わからない言葉をタイトルにしてはいけない。

■桜井　／　「路地空間の魅力」

・ 路地には狭さ故の安心感、囲まれ感がある。
・ 先が見えないところに魅力を感じる。

> まず路地とは何か考える。
位置から考え直し。

■相良　／　「見返り美人」

・ 腰のうねりや、色気に興味を感じた。

> なぜ見返り美人が好きか。
発表の趣旨が違う。
位置から考え直し。

■清水　／　「雑」

・ 雑な空間に魅力を感じた。まだその感じ方は自分の価値観。
・ ランダムな感じを作りたい。

> なぜ雑と思うのか？
普通の概念と雑の概念の境界線をはっきりさせること。
ランダムをつくるのは難しい。

■渡邉　／　「生活にまとわりついている物」

・ ファッションはかっこいい、ださい、などみるひとみられる人に効果を与える。
・ 衣はまとうものであり、建築は覆うものであると考える。
・ 服の性質を建築化したいとおもう。

> オシャレとは？ふぁっしょんとは？
まとう建築の例はあるか？
ファッションの意味を知ること。

■高橋　／　「構造と装飾性」

・ 構造美に興味を持った。
・ 構造には装飾性があるのではないかと思った。

> 今までにないテーマであることは面白い。
しかし、構造に装飾性はない。
同じ構造でも違う空間ができるように、そこにある美意識を調べる。

■大越　／　「単純だけど複雑、複雑だけど単純」

・ あかちゃんにきょうみがある。
・ 赤ちゃんの手相は複雑である。

> 言葉の意味を調べること。

■中林　／　「単体では成り立たないけど集合では成り立つ物」

・ 人ごみに魅力を感じた。
・ しかし、ライブ会場のように心地よい人ごみや満員電車のように不快な人ごみがある。
・ 嫌いな人ごみを好きな人ごみの空間へと変えたい。

> テーマはいいが、何がしたいのかがわからない。
このままではイメージ。

□総評

・ 自分の中でしっかりと評価軸を持つこと。
・ 自分で疑問に思ったことについて正しい答えを出すこと。
・ 今ではただのイメージ。
・ 必ず何処かにレファレンスがあるので具体的なものを探すこと。

□次回ゼミ

・ 2012 年 6 月 7 日　15:10〜20:00　山田記念室

吉松研究室　第 7 回議事録

日時　　：2012 年 5 月 24 日　木曜日　15:30〜17:00, 18:30〜20:00
場所　　：山田記念室
出席　　：M2　加藤　田口　細金
　　：M1　金子　増井(研究生)
　　：B4　板部　大越　落合(記)　相良　桜井　清水　高橋　玉江(記)　中林　山田　渡邊
欠席　　：なし

ゼミ内容

□ B4　荻窪まちづくり　アイデアコンペ
□ M1

□荻窪まちづくり　アイデアコンペ

■相良　中林　山田　／　「商店街の特徴と人の流れ」

・ 商店街のそれぞれの特徴と交差点の往来人数導線の分析。
・ 荻窪の各場所の人の流れ。

> 荻窪の導線、人の流れを全体でやる。
売上が高いのは人が通るから高い。
誰が何のためにやっているのか。商店街がやっても商店街の人しか利益がない。

■清水　桜井　板部　／　「歴史と文化」

・ 歴史と文化の施設やアニメの文化を広めるためのイベントに対する、住民の満足度が低い。

> 中央線や環八はいつできたのか？
西荻窪がなぜ荻窪よりさかえているのか？
他の成功している街との比較

■渡邊　玉江　高橋　／　「街並の成り立ち」

・ 昭和 14,22,33 の古地図を重ねることで、かつて路面電車が通っていたことを発見。
・ 大通り、路面電車、JR を軸に商店街の街並がつくられていったのではないか。
・ 銀座通り商店街は、昭和の雰囲気が残っているのではないか？

> 古地図を重ねた際の地図からの、読み取りがたりない。
銀座商店街の魅力がわからない。

■落合　大越　／　「荻窪の北と南の特徴」

・ 青梅街道にある陸橋ができたことにより、荻窪は唯一の地上駅となった。
・ 道幅が狭いことにより、視界が狭まり交通量も多いため通学路の危険性が高い。
・ 北と南では棟数の密度が違うことにより、防災の面や用途地域の問題も関わってくる。
・ 住居と商業が北と南では違いがある。北は放射状であり、南は放射状にも広がりがあるが横にも商業が広がりつつあり、つながりを持ちつつある。

> 小学校は町づくりをする際に重要なことだからそれを生かしていくべき。
浅く広くやりすぎるから、1 つのことにまとめる。
元々データから見えなかったものをみせるような図にする。
自分たちの結論を示す絵を書き、問題意識を持って、それをクリアにしていく。

□総評

・ 自分たちの結論を示す絵を書き、問題意識を持って、それをクリアにしていく。
・ 実際に街に行き問題意識を見つけ、それをクリアーにしていく。
・ 結論の絵を示す図を書く。

□次回ゼミ

・ 2012 年 5 月 31 日　15:10〜20:00　山田記念室

吉松研究室　第 6 回議事録

日時　　：2012 年 5 月 17 日　木曜日　15:30〜19:00
場所　　：山田記念室
出席　　：M2　加藤　田口　細金
　　：M1　金子　増井(研究生)
　　：B4　板部(記)　大越　落合　相良　桜井　清水　高橋　玉江　中林　山田　渡邊(記)
欠席　　：なし

ゼミ内容

□ B4　荻窪まちづくり アイデアコンペ、桜井 上海スライド会
□ M1

□荻窪まちづくり アイデアコンペ

■渡邊 玉江 高橋　／　「荻窪の街並み」

・ 荻窪の商店街の街並について考えた。
・ 銀座商店街にはかつて闇市があったことを説明した。

> そもそもサーベイになっていない。サーベイをして分析したことを発表する。
どこの地図か分からない、向きも統一していない地図からは地理関係が全く分からない。
南北の分断が問題とされているのならば、それをきちんと地図で説明する。
どのように分断されているのか。どこに不便だと感じているのか。
どこが通れて、どこが通れないのか。（自動車、歩行者、自転車、車いす等の場合）通れるところまでどのくらい離れているのか。
問題点を示した上で、写真等で説明する。いきなり写真を見せられても、どこの話か分からない。
説明出来ないような意味のない図版は載せない。南北の分断をしていることを地図で書いたほうが良い。

■相良 中林 山田　／　「荻窪の動線」

・ 自転車、車いすの通れる場所が限られており、遠回りしなければいけない。
・ 荻窪には 13 の商店街がある。
・ 荻窪の住民は荻窪駅からバスで自分の住む場所に移動し、家の近くの商店街で買い物をしている。
・ 南は道路整備が進んでおり、商店街と静かな住宅街がある。
・ 北は駅の周りには商店街と大型ショッピング施設とその周りにむかしの建物（小さい建物）が混在している。
・ 再開発により、南の商店街は売り上げ衰退と向上が 5:5 に対し、北は衰退と向上が 7:3 である.

> 南の方は分断されていることで、南だけで簡潔しているのでは？だとしたら、分断された方がいいのでは？
地図と説明文がきちんとリンクさせること。
言いたいことだけを伝える。情報が多すぎても伝わらない。

■清水 桜井 板部　／　「荻窪の歴史」

・ かつて荻窪には水田があり、原っぱとなる。そして別荘地となり、今は住宅地として存在する。
・ 善福寺川沿いの窪地に荻が群生していたので、“荻窪”の地名が生まれた。
・ 関東大震災以後、都心へのアクセスがよい荻窪に学者や文化人をはじめ、多くの人々が移り住んだ。
・ 学者や文化人も多く住んだため、「本の街」「クラシック音楽の街」と知られている。
・ アニメにも力を入れている。なみすけ（区公式キャラクター）の活用を図っている。

> なぜ別荘地となったのか？それなりのメリットがあるから人は集まるはず。
中央線の駅には荻窪と似たような場所が多くあり、そことどう違うのかを示す。

■落合 大越　／　「荻窪の問題点」

・ 杉並地区は災害などの対策を複数やっているどれも中途半端に終わっている。
・ このアイデアコンペを通して、地区外からの意見を聞くことで杉並区の発展を図ろうとしている。
・ 荻窪周辺には公園や広場が少なく、大田黒公園一つしかない。
・ 遊び場が少ないため、子供たちはマンションの裏や駐車場で遊んでいる。
・ 自転車事故が多発している。

> 調べたことを分かりやすく示すことが重要。パワーポイントの枚数が多ければ良いというわけではない。

□総評

・ 各班もう一度調べ直す。
・ ネットに落ちているような内容ではなく、きちんと分析すること。
・ 実際に街に行き問題意識を見つける。

□次回ゼミ

・ 2012 年 5 月 24 日　15:30～20:00　山田守記念室

吉松研究室　第５回議事録

日時　　：2012 年 5 月 10 日　木曜日　15:30〜20:30
場所　　：山田記念室
出席　　：M2　加藤　田口　細金
　　：M1　金子　増井(研究生)
　　：B4　板部　大越(記)　落合　相良　清水　高橋　玉江　中林(記)　山田　渡邊
欠席　　：桜井

ゼミ内容

□ B4　velux コンペ講評、ゼミ旅行収支報告書
□ M2　velux コンペ講評

□ゼミ旅行収支報告書

・後輩のために、内訳や連絡先などの詳細を書き直してドロップボックスに入れること。

□International VERUX Award 2012

■渡邊　清水　山田　桜井　／　「Rain of Right」

・光の雨を降らすことによって領域をつくる。
・１mm に約 200 本のスリットを入れ、偏光板の機能をもったものを作り、その間にビニールをはさむ。
・ビニールをはさむことによって光が乱反射する。
・デンスカラー　重ねることによって色が濃くなっていく。
・敷地は架空の場所で、色のないものから色を作っていく。

> ビニールを使うのは良くない。ビニールを挟むのなら、透明のガラスろ使えばいい。
偏光板のスケールをもっと大きくすれば、もっと良い。
屋根の傘のところで、色が出たらもっと良い。
全体的にバランスはいい。

■中林　大越　玉江　／　「succession of memory」

・問題となっている空地を選び、光を提案することでそこから光のネットワークを作り、京島全体が和紙のように結びついた街にする。
・水の入ったタンクをレゴのように積んで、アクリル板で屋根を作り水の入った柱を立てることで構造を支える。
・かつて空地に立っていた家のプロポーションを守ることで、コミュニケーションの場である路地ができ、京島の街並みと記憶を取り戻す。

> パネルのレイアウトが整理されていなくて、分かりづらい。
ポリタンクに光を加えた提案が必要。
街を調べることは良いが、敷地についてで終わってしまっている。
最終的にどうなるのかが、よくわからない。
光の話が足りない。

■相良　板部　高橋　落合　／　「The doorway is shining by light」

・１年中陽の光が当たらないところを提案する、
・章の部分が集まっているのに、寂しい空間になってしまっている。光は上の方から入ってくるので、それを下に届けることはできないか。
・塗料を塗って、渋谷川をイメージさせる。地面にも塗ることで、人を裏に誘導する。
・操作することによって、人を中に誘導していく。

> 英訳が全くわからない。
１年中当たらない場所はないはず。
全然論理的でない。
本末転倒。新しい発見がない。歴史の跡が見つけられたら、それは提案していけたたはず。
分析が多すぎて、提案部分が少ない。Before~After の図がわかりずらい。
壁面にただ塗料を塗っただけの提案。
スキマに光をあてるということは良かった。しかし、道路の両端をどうにかするという点が弱い。

■加藤　田口　細金　　／　「Edit urban sunlight」

・ 光の軸を壊している部分に提案する。
・ 引き屋をすることで、光を防ぐ。
・ 光の軸が途切れて、住宅に光が入らないことで、家の中に閉じこもった生活をし、住民同士のコミュニケーションのきっかけを無くしてしまっている。
・ 光の軸を作ることで、住環境が外に開かれ、住民同士をつなぐきかけをつくり、人と人がつながった街をつくる。

> レイアウトがいい。話の流れと順序が一目でわかる。
色の使い方がいまいち。トップ画の地面をグリーンにする意味はあるのか。
英語は OK!
分析の地図にもう少し月日などを書いておけばもっと良かった。
原稿はもう少し短くてもいい。
ディテールがもうちょっと欲しかった。

□総評

・ 全体的に時間が足りなかった気がした。
・ Ｂ４はレイアウトをきちんと学ぶ必要がある。

□サナエモリウルウル世界旅スライドショー

□次回ゼミ

・ 2012 年 5 月 10 日　15:30〜20:00　山田守記念室

吉松研究室　第４回議事録

日時　　：2012 年 4 月 26 日　木曜日　15:30〜20:30
場所　　：山田記念室
出席　　：M2　加藤　田口　細金
　　：M1　金子　増井(研究生)
　　：B4　板部　大越　落合　相良(記)　桜井(記)　清水　高橋　玉江　中林　山田　渡邊
欠席　　：なし

ゼミ内容

□ B4　ゼミ旅行　花見　velux コンペ　Marca Scarf
□ M1　象の鼻報告書

□International VELUX Award 2012

■渡邊　清水　山田　桜井　／　「lime light」

・ 人工的な脚光を可視化させると内外が反転している光の領域ができるんじゃないかと考えた
・ 裏原、キャットストリートは自然光と太陽光があふれていて内外が混在しているのではないかと考えた。
・ 分析の結果一日中光が当たっている所を敷地にした

> まばらな光とは何か？
何を言っているのか正直分からない。
グループがかみ合っていない。
A 班はちゃんとグループワークになっているのか？

■中林　大越　玉江　／　「呼応する光」

・ 京島は空き屋や空き地が目立っていて街並を壊してしまっているという事が問題だと考えた
・ 現在、京島では空き地を増やさなきゃいけない
・ 空き地を増やすのは止められないので、せめて京島らしい光を残していく
・ 京島らしい光を和紙の光で表現して残していく
・ 和紙の光を表現する装置を考えた

> 京島らしい光と普段の光は何が違うのか？
説明出来なければ京島らしいと言えない。
和紙の光を表現するのにこんなお金のかかる物をつくるのか？
京島の空き地に水の固まりの物を入れるだけでも大丈夫なのでは？
新しい光の使い方や提案があるといい。

■相良　板部　高橋　落合　／　「Projecting wall」

・ キャトストリートと明治通りの間の住と商が混在する場所を敷地とした。
・ 商業が増えて来て、建物高さが高くなっている事によって日の当たり方が変わっていることに気づいた。
・ 路地を明るく照らす事で、裏に導く事が出来ないか考えた。
・ 路地に面したファサードに光沢のある塗料を塗る。
・ 元のファサードに凹凸があるので塗料を塗る事で川のような光を落とす事が出来る。

> タイトルがだめ。
敷地がでかいのでないか？
盛り込みすぎないのではないか？
企画論でしかないのでこれでは勝てない
ファサードに関しては触らないというのは面白い
明るくするのは真っ白い塗料で十分

■加藤　田口　細金　／　「Urban light axis」

・ 南新宿三丁目を時間帯にわけ光のあたる箇所を考えアプローチしていく。
・ 一年中光が当たる時間を調べ、10 時〜12 時だと分かった。
・ 冬至の時は 10 時半〜11 時の間に一番光が当たる。
・ その時間が一番光がのびるので、光の伸びを増幅させる装置を屋根に提案

> 街をサーベイし時間帯に分けた光の変化を分析していくのは良いが、最後に全部を重ねるのではなく、分析結果を数値かしグラフにまとめるべき。
敷地固有の南中時をねらう。町が明るくなった後のビジョンがない

□Marca Scarf Design Award 2012

・ 一周目の案が一番良かった
・ 遠くから見た時に何か分からないというのがいい
・ 去年勝った人はちゃんと 90cm サイズで打ち出して来た

□総評

・ 建築がある程度わかり、英語が出来る助っ人を探す
・ 密度感がほしい
・ スケジュールをたてる

□次回ゼミ

・ 2012 年 5 月 10 日　15:30〜20:00　山田守記念室

吉松研究室　第 3 回議事録

日時　　：2012 年 4 月 19 日　木曜日　15:30〜20:30
場所　　：山田記念室
出席　　：M2　加藤　田口　細金
　　：M1　金子　増井(研究生)
　　：B4　板部　大越　落合　相良　桜井　清水(記)　高橋　玉江　中林　山田(記)　渡邊
欠席　　：なし

ゼミ内容

□ B4　ゼミ旅行　　velux コンペ　Marca Scarf
□ M1　Marca Scarf

□ゼミ旅行

・ 建築紹介

□International VELUX Award 2012

■渡邊　清水　山田　桜井　　／　「光の雨」

・ 夏の暑さを暖かいにかえる
・ 傘の骨組みの密度によって光の量を調節する

> 傘は悪くないが今のままでは影の提案。
色を通して可視化させたほうが光が見えるのではないか。
夏だけの提案なのか。光がどういう風に落ちるのか考えたほうが良い。
やりたい光を明確にして形は本当に傘なのかを考える。
夏と限定するなら敷地を決める。
作りたいものはわかるが、メリットが見えない。

■中林　大越　玉江　　／　「呼吸し呼応する」

・ 日本の障子を用いて、光を空間に取り込む。
・ 1,5 ハウスという街に小さなインフラをつくる。
・ 京島の街並みが和紙の繊維に似ているので馴染みやすい。

> 障子を使うのは良いが、1,5 ハウスと京島が障子との話と繋がっていない。
淡い光が落ちないのではないか。
繊維の構造を使うのではなく、和紙を通した光をもっと考える。
京島をサーベイし、どんな光を供給させられるか。
何が一番やりたいのかが見えてこない。

■相良　板部　高橋　落合　　／　「外→内→外」

・ 外→内、で完結していた今までの光を外→内→外、と光が抜けることで、住宅の光のあり方を変える。
・ 窓の配置を変えて光を通す。
・ 車庫に光を入れて空間を作る。北側の庭に光を入れる。

> どこが新しいのか。
車庫よりも別の場所に光を当てたほうが良いのではないか。
都市に対しても何かできたほうが良い。

■加藤　田口　細金　　／　「光のグリッド」

・ 南新宿三丁目を時間帯にわけ光のあたる箇所を考えアプローチしていく。
・ 塀が多くある場に何か提案できないか考え、

> 街をサーベイし時間帯に分けた光の変化を分析していくのは良いが、最後に全部を重ねるのではなく、分析結果を数値かしグラフにまとめるべき。
光を通して何になるのか。
一時間ごとではなく、細かく限定して分析すれば、最小限で最大の効果が得られるのではないか。

□Marca Scarf Design Award 2012

・ 横浜といえば何かを考える。
・ 前回のほうが良かった。

□総評

・Ｂ４はコンペで求められていることを考える。
・ストーリーを考えてメカニズムをつくる。
・グループで設計することの利点は違う意見が出ること。
・それぞれの意見を統合する方法を考え、そのために分析し、相手を納得させる。
・案を重ねていくというのが大事。お題がありテーマがあり、それを重ねていく。設計も同じ。
・５Ｗ１Ｈを考える。
・光についてもっと勉強する。

□次回ゼミ

・2012 年 4 月 26 日　15:30〜20:00　山田守記念室

吉松研究室　第２回議事録

日時　　：2012 年 4 月 12 日　木曜日　15:30〜20:30
場所　　：山田記念室
出席　　：M2　加藤　田口　細金
　　：M1　金子　増井(研究生)
　　：B4　板部　大越　落合　相良　桜井　清水　高橋(記)　玉江(記)　中林　山田　渡邊
欠席　　：なし

ゼミ内容

□ B4　ゼミ旅行　花見　velux コンペ　Marca Scarf
□ M1　象の鼻報告書

□ゼミ旅行

・ とうぶ方面案、二日目のとうぶのあとの建築を早く決める。
・ 旅のしおり、持ち物リストを作成しておくこと。
・ スポーツの内容も決めておくこと。

□花見

・ 集合時間と集合場所を今日中に決定すること。

□International VELUX Award 2012

■渡邊　清水　山田　桜井　／　「タイトルなし」

・ 夏の暑さを暖かいにかえる
・ 色と傘を使って変化させる

> ストーリーは良いが、全体の流れとして話が通っていない。
色に着目した点は、良いが癒しという抽象的な表現をしようするのは、良くない。
色によって変化させる場合、フィルターを使用しなければならないから、光の取り込み方との関係を考えなければならない。

■中林　大越　玉江　／　「呼吸し呼応する」

・ 日本の障子を用いて、光を空間に取り込む。
・ 1,5 ハウスという街に小さなインフラをつくる。

> 障子を使うのは良いが、1,5 ハウスと京島が障子との話と繋がっていない。

■相良　板部　高橋　落合　／　「across ground」「外→内→外」

「across ground」
・ 地下道路の、地上と隔離され無機質となった空間に地上の光を取り入れる。
「外→内→外」
・ 外→内、で完結していた今までの光を外→内→外、と光が抜けることで、住宅の光のあり方を変える。

「across ground」
> ただの天窓。過去の似たような作品とは違う新しさがない。
「外→内→外」
> リアリティはある。だが仕組みがない。街の照明器具として木密地域を探すとよい。

■加藤　田口　細金　／　「タイトルなし」

・ 南新宿三丁目お時間帯にわけ光のあたる箇所を考えアプローチしていく。
・ 塀が多くある場に何か提案できないか考え、塀にルーバーを加え光の入り方を操作していく。

> 街をサーベイし時間帯に分けた光の変化を分析していくのは良いが、最後に全部を重ねるのではなく、分析結果を数値かしグラフにまとめるべき。
分析して何を発見し、何が変化したのかの、Before→After が大切。

□Marca Scarf Design Award 2012

・ 吉松研 OB 遠藤さんのご実家が主催されているスカーフのコンペ。
・ 遠くから見るとよくわからないが近くに来るとよくわかる。
・ どう巻くかわからないからシンメトリーのようなデザインにする。
・ シンメトリーだがアシンメトリーのような感じ。
・ ストーリーの立て方を考えていく。スカーフの中に物語を立てていく。
・ Photoshop のトリミングを活用すると良い。同じ写真でも切り取り方で全く印象が変わる。

□総評

・Ｂ４はコンペで求められていることを考える。
・Ｍ２は抽象的なので、リアリティやメカニズムがほしい。
・グループで設計することの利点は違う意見が出ること。
・それぞれの意見を統合する方法を考え、そのために分析し、相手を納得させる。
・案を重ねていくというのが大事。お題がありテーマがあり、それを重ねていく。設計も同じ。

□次回ゼミ

・2012 年 4 月 19 日　15:30〜20:00　山田守記念室

吉松研究室　第１回議事録

日時　　：2012 年４月５日　木曜日　11:00〜13:00、16:30〜18:00
場所　　：山田記念室
出席　　：M2　田口　細金
　　：M1　金子（記）（研究生　増井）
　　：B４　板部　大越　落合　相良　桜井　清水　高橋　玉江　中林　山田　渡邉
欠席　　：加藤

ゼミ内容

□今年度の研究室の体制について
□ B4　ゼミ旅行
□ M1　象の鼻報告書

□進路について

■進学組

・渡邉：千葉大（小林研）
・玉江：千葉大（福川研）
・落合：YGSA
・板部：YGSA
・山田：首都大（小泉研）
・清水：都市大（手塚研）
・桜井：留学
・高橋：東工大（竹内研）
　　構造系
・増井：東工大（柳澤研）

■就職組

・大越：組織設計（類）
・中林：組織設計（総合）
・相良：ゼネコン
　　住宅（一条）
・細金：アトリエ
・田口：組織設計（NTT/プランテック）

■進学組

> 院は執行猶予ではない。院は結婚と一緒で一生ついて回る。就職と同じように考え、悩むべきである。進学は後 1,2 ヶ月で決めなければならない。大学は名前や人で決めるのではなく、環境が大事。まずは興味のある研究室に行ってみること。英語が大切。院での方向転換はかなり大きい問題である。

■就職組

> 昔とは違い、大手の会社でもクビや潰れる可能性がある。就職がうまくいかなかったときのことは考えなければいけない。10 年後を見据えて考える。できないのなら 5 年後でもいい。来年決める必要はない。結論を急がずにゆっくり学んで慎重に進路を見極めるべき。設計をやりたいのなら設計でお金を取っている会社を選ぶ。説明会だけではわからない。アルバイトなどをして実際に見た方がいい。

□今年度の研究室の体制について

■ゼミ旅行について

・ 学外教育願いを早急に出す事。
・ OBOG、2-4 年生にも声をかけ人数を集める。
・ 卒業設計に参考になる建築を選ぶと良い。
・ 日程は４／２０（金）〜２１（土）

■ゼミについて

・ 毎週月、木曜日の予定、水曜日は予備日
・ 木曜日　ゼミ　　４限〜

■決定事項

・ 会計：M１金子　B４板部、大越、（玉江）
・ 鍵管理・書類：M２田口　B４桜井、清水、（中林）
・ ネットワーク：M２細金、加藤　B4 渡邉、落合
・ 物品管理：M１金子

■連絡事項

・ 事務室にあるコピーカードで、事務室と山田記念室のコピー機を使用できる(ゼミで使用する資料のみ)。
・ 基本的に第２研究室は自由に使用可能。模型材料は、B4 は使用禁止。私物を置かないこと。但し、共有物は良い。
・ できるだけ研究室を使うようにすること。
・ 院生もポートフォリオで使用する紙などは自分で購入すること。
・ 私物は自己管理し、研究室を使用しない場合は鍵を閉めること。
・ アーカイブのデータをドロップボックスへ。
・ 写真などを facebook にあげること。
・ Velux コンペ 5/7 まで、スカーフコンペ 5/6 まで。

□次回ゼミ

・ 2012 年４月 12 日　15:30〜20:30　山田記念室